



すべての生命が安心して生活できる社会を目指して

Annual Activity Report 2009

特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス



2009年度 年次報告書



(特活) テラ・ルネッサンス
理事長 鬼丸昌也

2009年度の振り返り

2009年度は、「すべての生命が安心して生活できる社会(=世界平和)の実現」という設立目的に向かって、カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴ(民)、そして日本で様々な活動に取り組んでまいりました。

カンボジアでは、地雷による被害者を少しでも減らしたいという思いから、地雷埋設地域での貧困対策に力を入れ、ラオスでは、第二の地雷と呼ばれるクラスター爆弾の除去支援を実施しました。また、ウガンダやコンゴでは元子ども兵の社会復帰支援のために、職業訓練、識字教育などの支援を元子ども兵たちに提供するとともに、紛争の影響を受ける地域住民にまで支援を広げて活動をしました。

同時に、私たちは「問題は、認知度を高めない限り、問題にならない」という姿勢に基づいて、国内での広報活動にも注力してきました。今年度は、2人の新規職員を採用し、日本事務所の基盤整備に努めました。会員や支援者へのサービス向上、ウェブサイトのリニューアルも含めた積極的な広報活動、職員・インターンのスキルアップなど、テラ・ルネッサンスが設立目的に向けて、より力強い活動ができるような組織を作り上げるための改革に取り組み始めたのは、2009年度の活動において、特筆すべき点だと思います。

2010年度に向けて

本年度、テラ・ルネッサンスは設立から10周年。NPO法人化5周年の節目を迎えます。テラ・ルネッサンスのすべての活動は、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」という設立目的を追求するために存在しています。

10周年という節目を迎えるのを契機として、今まで取り組んできた各種活動を、第三者も含めて、様々な角度から評価してまいります。その際の評価基準は、「設立目的を追求するために、効果的な活動であったかどうか。私たちの目指している社会への変革に貢献する活動であったか」という点です。その基準ですべての活動を評価し、修正すべき点は修正し、効果的な活動は大いに発展させる「活動の選択」を実施したいと考えております。

また、地雷、小型武器、子ども兵という私たちの取り組んでいる課題の根本的な解決を果たすために、カンボジア、ラオス、ウガンダ、コンゴでの支援活動の成果を基に、政策提言、市民への啓発活動に、より積極的な取り組みを始めます。企業、行政、労働組合、学生、様々な市民社会を担う方々と、対話をし、平和への意思を結集する「核」に、小さくともなれるようなNPOを目指してまいります。

活動報告書をお読みの会員・支援者の皆さまは、私たちにとって「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」という目的を共有する同志だと信じております。次の10年も皆さまと一緒に、さわやかな社会変革の風を巻き起こしたいと願っております。今後とも、ご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

TERRA RENAISSANCE MANIFESTO 2010-2012

～世界を変える3つの提言

30の行動目標～

テラ・ルネッサンスは、「すべての生命が安心して生活できる社会の実現」を目指して、2013年3月31日までに、以下の項目を実現します。

1. 10,000人の紛争で傷ついた人を支援します。(支援)

- ①ウガンダ北部で、元子ども兵160名の社会復帰を実現します。
- ②ウガンダ北部で、元子ども兵の住む地域の貧しい人々200名の収入向上を促進することで、元子ども兵と地域社会の和解を促します。
- ③コンゴ(民)で、元子ども兵と紛争の影響を受ける人々2,000名のBHN(衣食住など、人間としての基本的ニーズ)を満たし、紛争後に向けた生活を再建します。
- ④コンゴ(民)で、2,000名にマラリア予防のための蚊帳を配布します。
- ⑤カンボジアで、地雷除去支援を行い、1,000世帯の安全を確保します。
- ⑥カンボジアで、地雷埋設地域に住む300世帯の自立を促進します。
- ⑦ラオスで、不発弾処理支援を行い、1,000世帯の安全を確保します。
- ⑧カンボジア、ラオスで安全が確保された土地に学校を建設し、1,500名の子どもたちに教育の機会を提供します。
- ⑨カンボジア、ラオスで、地雷・不発弾回避教育のための教材を5,000部作成・配布します。
- ⑩活動地域において、不法な小型武器取引の規制を推進する啓発活動を実施します。

2. 100,000人の「平和の担い手」を育成します。(育成)

- ①各種教育機関よりインターンを200名受け入れ、平和の担い手を育成します。
- ②活動地域へのスタディツアーを通じて、100名の平和の担い手を育成します。
- ③子ども兵、地雷などをテーマにした平和教育プログラムを開発し、各種教育機関に提供します。
- ④平和教育プログラムを担える教職員を育成するためのセミナーを実施します。
- ⑤NPO/NGOに関心を持つ学生・若者に対して実践型セミナーを実施します。
- ⑥全国各地に1,000名のボランティア登録者を募り、テラ・ルネッサンスを応援する地域リーダーを50名育成します。
- ⑦各種学習会などを通じて、政治家を含めた政策策定者に、小型武器、子ども兵などの課題解決に向けた政策形成を働きかけます。
- ⑧ひとや地球にやさしい企業の在り方を提示し、特に中小企業のCSR推進を応援します。
- ⑨活動地域にて、対話による平和構築を目指し、各種セミナー、ワークショップを実施します。
- ⑩活動地域事務所にて、スタッフの育成を行い、現地人による主体的な運営を目指します。

3. 1,000,000人の平和に関心を持つ人を増やします。(啓発)

- ①職員、インターン、ボランティアによる講演を、全国各地で500回実施し、50,000人に平和について伝えます。
- ②各種メディアを通じて、テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について積極的に広報します。
- ③携帯電話サイト、動画サイトを作成し、より「分かりやすい」啓発に努めます。
- ④支援実績を基に、子ども兵や地雷・クラスター爆弾、小型武器に関する小冊子・DVDなどを作成します。
- ⑤テラ・ルネッサンスの活動、取り組み課題について伝える写真展を100ヶ所で開催します。
- ⑥気軽な国際協力の手段として、使用済みインクカートリッジ、書き損じハガキの回収拠点、募金箱設置拠点を1,000箇所に増やします。
- ⑦CSR調達、ISO26000の普及にむけ、企業・団体に積極的な働きかけを行います。
- ⑧日本国内で不法な武器取引規制を求めるキャンペーンなどを行います。
- ⑨ウェブサイト上での決済手段を導入し、より寄付のしやすい条件整備を進めます。
- ⑩認定NPO法人格を取得し、より寄付のしやすい条件整備を進めます。

－目次－

理事長挨拶	2
テラ・ルネッサンス マニフェスト 目次	3
テラ・ルネッサンスの活動理念・地域・取り組み	4-5
2009年度活動報告	
●カンボジア・ラオス事業	6-9
●ウガンダ・コンゴ事業	10-13
●日本	14-16
●講演	17
支援者様のご支援紹介	18-19
会計報告	20-21
物販	22
組織概要・職員紹介・第三者意見	23

テラ・ルネッサンスの目的・使命・活動理念

テラ・ルネッサンスのすべての活動は、設立「目的」(ヴィジョン)を達成するために行われます。

ヴィジョンを達成するために、責任をもって果たさなければならない任務が「使命」(ミッション)です。

そして、すべての活動の指針となるのが、「活動理念」です。

設立目的(ヴィジョン)

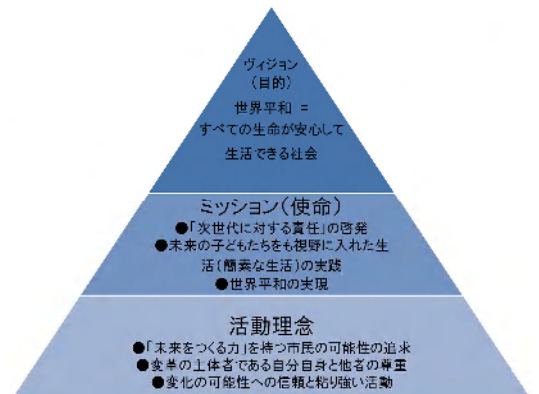
世界平和の実現＝すべての生命が安心して生活できる社会の実現

使命(ミッション)

当会の事業を通じ、人々に『次世代に対する責任』を啓発し、それぞれが個人、家庭人、社会人、そして地球市民として、未来の子どもたちの生活をも視野に入れた生活(簡素な生活)を実践することにより、人類共通の理想『世界平和』を実現する。

活動理念

1. 私たちは一人ひとりに「未来をつくる力」があると信じ、市民の可能性を追求しています。
2. 私たちは内なる変化がすべての変化の始まりであり、変革の主体者は私自身であることを理解しています。そして、他人も変革の主体者であることを理解し、相手を尊敬しています。
3. 私たちはあらゆることは常に変化することを理解し、あきらめずに活動し続けています。



③ Republic of Uganda (ウガンダ共和国)

- 元子ども兵社会復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題啓発プロジェクト



④ Democratic Republic of Congo (コンゴ民主共和国)

- 元子ども兵及び紛争被害者社会復帰支援プロジェクト
- 不法小型武器問題啓発プロジェクト



組織の沿革

- 2001 ■理事長 鬼丸昌也が、大学在学中にカンボジアを訪れ、地雷問題に触れ、「まずは伝えることから」と、講演活動を開始。「テラ・ルネッサンス(任意団体)」を設立し、地雷除去資金提供、国内での地雷問題の啓発活動に取り組む。
- 2002 ■社団法人日本青年会議所「人間力大賞」を理事長 鬼丸昌也が受賞。
- 2003 ■国際小型武器行動ネットワークに加盟。
■世界子ども兵禁止連盟に加盟。
- 2004 ■日本小型武器行動ネットワーク(JANSA)設立に参加、当会理事長 鬼丸昌也が運営委員に就任。
- 2005 ■特定非営利活動法人格を取得。
■『ぼくは13歳 職業、兵士。～あなたが戦争のある村で生まれたら～』(鬼丸昌也・小川真吾 共著)出版。
- 2008 ■『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』(鬼丸昌也 著)出版。
- 2009 ■社団法人倫理研究所「地球倫理推進賞」受賞。

① Kingdom of Cambodia (カンボジア王国)

- 地雷埋設地域村落開発プロジェクト
- 小学校建設・修理プロジェクト
- 地雷撤去活動支援プロジェクト
- 女性義肢装具士育成プロジェクト(2009年9月終了)



② Lao People's Democratic Republic (ラオス人民民主共和国)

- 不発弾撤去支援プロジェクト
- 中学校建設支援プロジェクト



⑤ JAPAN(日本)

- 平和教育・啓発活動



カンボジア・ラオス事業沿革

2001-2003:

- 地雷撤去団体Halo Trustへ資金提供
- 義肢装具提供団体カンボジアトラストへ資金提供
- カンボジアスタディツアーの開催

2004:

- カンボジアにて、女性義肢装具士育成のため、第1期奨学生に奨学金給付を開始

2005:

- カンボジアにて、除隊兵士の生活再建事業を開始（NPO法人 インターバンドとの協働事業・2006年終了）

2006:

- カンボジア・バタンバン州にカンボジア事務所を開設
- カンボジアにて、女性義肢装具士第1期奨学生卒業。続いて、第2期奨学生に奨学金給付を開始

2007:

- カンボジア・バタンバン州バナナ郡にて、村落開発事業を開始
- ラオスにて、不発弾（クラスター爆弾）被害の現地調査を実施

2008:

- カンボジアへ駐在スタッフを派遣
- カンボジア・バタンバン州カムリエン郡にて、村落開発事業を開始
- カンボジアにて、小学校建設事業を開始
- カンボジアに、穂高小学校を建設
- ラオスにて、不発弾処理支援及び中学校建設事業を開始

TOPICS

オッチョンボック村：地雷生存者のスタッフが教える地雷埋設地域での裁縫技術訓練

カンボジア、バタンバン州カムリエン郡オッチョンボック村では、2009年12月より、地雷生存者であり、テラ・ルネッサンスの現地スタッフでもあるラウが村に滞在し、若い最貧困層の女性4名に裁縫技術訓練を実施しています。

ラウは、別のNGOで裁縫技術訓練を受けていましたが、訓練後、その技術を生かせずにいました。テラ・ルネッサンスで雇用後、再度忘れていた裁縫技術を学びなおし、村の貧困層の女性へ教える立場になりました。

最貧困層の若い女の子たちは、村では農業労働者ぐらいしか仕事がありません。そのため、訓練前にインタビューをしたときには、自らの厳しい境遇に泣き出す子もいました。小さいときからの夢は仕立屋になることだったという女の子は、裁縫技術を学ぶチャンスが今までありませんでした。しかし、今はその夢に向かって、休みの日も惜しんで勉強しています。



裁縫技術訓練を受ける4名の貧困層の女性たちと地雷被害者でもある職業訓練トレーナーのサムリット・ラウ（一番左）

サムロン・チェイ村橋建設プロジェクト

バタンバン州バヴェル郡サムロン・チェイ村では2008年に株式会社穂高住販様からのご寄付で小学校を建てました。多くが貧困層のこの村では、村へアクセスする道が悪いために農作物を出荷したり、市場へ出たりすることができず、貧困から抜け出すことが難しい状況でした。なかでも、村の道にかかる2本の橋が木造で、車が通れないことが一番の問題でした。

2009年6月、株式会社穂高住販様からのご寄付で村人たちが望んでいた2本の橋建設を、実施しました。労働力は村人たちが賄い、多くの村人の協力のおかげで予定よりも早く橋が完成しました。鉄筋コンクリート製の橋は、車や大型のトラックも通ることができ、村人たちが使用するトラクターもこの道を通りできるようになりました。これにより、雨季でも急病患者を街の病院まで運ぶこともできるようになり、村人たちの生活改善に大きく貢献することができました。



村へつながる道にかかる橋。村人たちが自分たちで労働力を賄い、建設をしている様子

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト概要

プロジェクトの目的	地雷埋設地域の貧困削減
対象地	カンボジア・バタンバン州カムリエン郡オッチョンボック村、プレア・プット村 バヴェル郡サムロン・チェイ村
主な受益者	地雷被害者などの障害者を含む最貧困層

小学校建設・修理プロジェクト

プレア・プット小学校、屋根と壁の修理

カムリエン郡プレア・プット村では、内戦中に病院として建てられた校舎を小学校として使っています。しかし、激しい戦闘の影響で、すでに屋根や壁には穴があき、一部の壁は崩壊寸前でした。

2009年6月に開催された第3回「頑張らない」チャリティ・バドミントン大会の収益をご寄付いただき、小学校の屋根と一部の壁の修理を行いました。建築の専門家1名以外は、村の大工さんや貧困層を労働者として雇ったことで、小学校の修理が、彼らの支援にもなりました。そして、この小学校に通う200名以上の生徒が、雨や強風を心配せずに勉強できるようになりました。



屋根と一部の壁の修理が完了した小学校の校舎

プレア・プット小学校 図書室づくりと掃除

2009年11月に長崎のNPO法人コミュニティ時津の4名の方にプレア・プット小学校を訪問していただき、日本から文房具や絵本、衣服をご寄付いただきました。また、村の子どもたちや村人たちと一緒に、小学校の掃除や図書室づくりを実施しました。

この小学校には、子どもたちが食べたお菓子の袋などが散在していました。子どもたちと一緒に掃除をするときには、言葉は必要ありませんでした。4名の方が掃除を始めると、子どもたちも自然と掃除を始めました。

日本から持ってきていただいた絵本は、子どもたち2、3人で絵を見ながら、話を創っていきます。絵本など見たこともなかった子どもたちは、想像以上に、絵本を楽しんでいました。



図書室づくりと清掃を終えた村の小学生と村人たち

● 小学校建設・修理プロジェクト概要

プロジェクトの目的	地雷埋設地域での初等教育の普及
対象地	バットンバン州カムリエン郡プレア・プット村
主な受益者	プレア・プット小学校生徒約200名

地雷除去支援プロジェクト

地雷撤去…また一人の命が助かったと思う。

年2回のスタディツアーでは、提携している地雷撤去団体MAGへ地雷撤去活動費を提供しています。2010年3月のスタディツアーでは、バットンバン州マノアハカル村地雷原を視察。道からわずか2mのところで見つかりました。

「ズドン!!」。大地を揺るがすほどの爆破処理の音が、腹の底まで伝わってきました。一瞬遅れて砂煙が舞い上がり、ゆっくり風に流されていきます。MAGのスタッフと村人たちが、「1個の地雷の爆破処理が終わるたびに、また一人の命が助かったと思う」と話していたのが印象的でした。



カンボジアで最も多く埋設された地雷の1つ、旧ソ連製の対人地雷PMN

● 地雷除去支援プロジェクト概要

プロジェクトの目的	新たな地雷事故の防止、貧困層への安全な土地の確保
対象地	カンボジア・バットンバン州、バンテアイ・ミエンチャイ州、パイリン特別市
主な受益者	地雷埋設地域に住む村人

女性義肢装具士育成 第2期奨学生ヒム・カンニャさん祝卒業&就職

2006年10月より奨学金を提供してきた女性義肢装具士育成プロジェクト第2期奨学生のヒム・カンニャさんが、3年間の教育課程を修了し、難関の最終試験に合格。2009年9月にカンボジア義肢装具士養成学校を卒業しました。

技術や知識の上達はもちろん、以前はとても恥ずかしがり屋だった彼女ですが、卒業時に、英語ではっきりと自分の意見を述べる姿に、大きな成長を感じました。2009年12月よりシハヌーク・ビルのリハビリテーションセンターで義肢装具士としての一步を踏み出しています。



2009年9月10日、卒業式で卒業証書を受け取ったヒム・カンニャさん(右から2人目)

ラオス：不発弾撤去支援・中学校建設プロジェクト

不発弾汚染地域での中学校開校式

2008年12月から進めてきた不発弾撤去と撤去した後の土地に中学校を建てるプロジェクト。2009年9月1日に、シエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村で、完成した中学校の開校式を行いました。日本からは不発弾撤去と中学校建設費用をご支援くださったプレマ株式会社の社員の皆様が、浴衣を着てご参加くださり、村人たちが闘牛や伝統舞踊で歓迎するという盛大な式になりました。

カンパニオン村は周辺14村の中心に位置している村で、小学校がありました。しかし、小学校を卒業しても中学校がないために、中学生は小学校の教室を使って午前、午後に分かれて勉強していました。今回中学校が完成したことで200名以上の生徒が、この校舎で勉強できるようになります。これまでは、中学生が教室を使うために小学生の授業は限られた時間しか使うことができませんでしたが、中学校ができたことで、十分に授業を受けることができるようになります。

また、京都文紙事務用品組合の皆様にご協力いただき、開校式に合わせて、文房具を寄贈しました。式中に、「ラオスと日本の友好関係に万歳」と書かれた横断幕のテープカットが行われ、風船とともに空高く飛んで行きました。この横断幕は、「日本まで飛んで行くだ」と話すラオスの人々。式後は、モン族の伝統舞踊も披露され、盛況に終わることができました。



中学校開校式での「ラオスと日本の友好関係に万歳」と書かれた横断幕のテープカットの様子

●ラオス：不発弾撤去・中学校建設プロジェクト概要

プロジェクトの目的	不発弾汚染地域での初等、中等教育の普及
対象地	ラオス・シエンクアン県ノンヘット郡カンパニオン村とその周辺14村
主な受益者	カンパニオン村とその周辺14村に住む中学生約200名

ウガンダ・コンゴ事業沿革

2004:

●ウガンダにて、子ども兵、小型武器の現地調査を実施

2005:

●ウガンダへ駐在スタッフ派遣

●ウガンダにて、元子ども兵社会復帰支援事業を開始

●ウガンダ・カンパラ市にウガンダ事務所を開設(2008年閉鎖)

●ウガンダ国内にて不法小型武器問題啓発プロジェクトを開始

2006:

●ウガンダ・グル県に、事務所及び元子ども兵社会復帰支援施設「スマイルハウス」を開設

●続いて、「グローブハウスI」、「クラージュハウス」など、3つの施設棟を建設

●コンゴにて、子ども兵の現地調査を実施。現地NGO GRAM(グラム)と提携し、不法小型武器問題啓発プロジェクトを実施

2007:

●ウガンダにて、外務省「日本NGO支援無償資金協力」により職業訓練棟などを建設

●ウガンダに、紛争被害者など社会的弱者支援のための施設「グローブハウスII」を建設

●コンゴにて、子ども兵の現地調査を実施。現地NGO GRAMと提携し、元子ども兵社会復帰支援(1年間のパイロットプロジェクト)を開始

2008:

●コンゴにて、職業訓練施設(グローブハウスIII)の建設を開始(翌年6月完成)

TOPICS

元子ども兵37名が社会復帰しました。

これまで自立に向けて歩んできた1期生15名及び2期生22名の元子ども兵が、09年5月に私たちの支援を離れ完全に社会復帰することができました。

それぞれが洋裁や手工芸、小規模ビジネスなどによって月平均6,554円もの収入を得ることができるようになりました(現地のホテル従業員の給与が約3,500円)。受け入れ当初は、ほとんどが収入を得たことも、一般社会で働いた経験もなかった元子ども兵たちが、今では自分の生活だけでなく、子どもたちの養育費まで賄えるようになりました。

また、帰還してから元子ども兵だという理由で近隣住民からの差別や偏見に苦しんでいた彼ら彼女らが、今では住民との関係も改善して、お互いに物の貸し借りや子どもや病人の面倒を見合うなど相互扶助(助け合い)の活動もできるようになっています。兵士時代に受けた心の傷は完全に癒されたとは言えませんが、それでも過去の絶望的な状況から、それぞれが希望を持って未来を描くことができるようになりました。

3期生の元子ども兵たちも社会復帰に向けて着実に歩み続け、ほとんどがここ半年間の収入を安定させています。(3期生は2010年6月に卒業予定)



【左】自立を果たし修了証書を受け取る元少女兵

【右】洋裁技術を使って収入を得ることができるようになった元少女兵

元少年兵が念願の家具職人になりました！

4期生の元子ども兵15名が今年度、1年半の職業訓練を終えて、当会からマイクロクレジット（小規模の融資）と木工大工用具などを受け取り、社会復帰施設の外で収入を得る練習を始めました。

はじめは、お客さんが全く来てくれず、試行錯誤しながらのスタートでしたが、徐々にお客さんも増え、椅子や机などの家具を注文してもらえるようになってきました。これまでは当会からの直接的な食費・医療費の支援なしでは生活が困難だった元少年兵たちが、今は野外に小さな木工大工店を開店したり、現地住民から建具の修復などの仕事を任されるようになりました。

現時点では、まだ安定した収入を得るまでには至っていないため、当面は当会からの支援も必要ですが、受け入れ当初と比べれば確実に大きな変化を見せ、銃を持って戦うことしか知らなかった元少年兵達が今では家具職人として地元の平和と復興に貢献し始めています。



【上段】職業訓練を終え工具を受け取った4期生
【下段】木工大工店に勤め始めた4期生

新しい元子ども兵の社会復帰が始まりました

今年度、1期生、2期生の卒業とともに新しい元子ども兵38名（5期生）を当会の施設に受け入れました。現在、反政府軍（LRA:神の抵抗軍）はコンゴ北東部などに拠点を移しており、拘束されている子ども兵らが自らウガンダに逃げ帰ることはほぼ不可能な状況です。今回、受け入れた受益者は、コンゴでの政府軍との戦闘で保護された元子ども兵や、既に帰還しているが支援を受けられずにいた元子ども兵が中心です。

受け入れから既に一年近くが経ちましたが、日々、職業訓練（洋裁、木工大工など）に励み、子ども服や家具など初の製品も完成させ、今ではいく種類もの製品を作れるようになっています。また、食費や医療費の支援により、彼ら彼女らの生活も安定し、施設では職業訓練の他、平和教育や基礎教育なども履修して社会復帰に向けての一步を踏み出しています。



【上段】新規に受け入れた5期生の元子ども兵たち
【下段】ドラマを通した平和教育クラスの様子

●ウガンダ北部元子ども兵社会復帰支援プロジェクト概要

プロジェクトの目的	元子ども兵が社会復帰するために必要な能力を身につけ経済的に自立するとともに地域住民との関係を改善しながらコミュニティーで安心して暮らせるようになる
対象地	ウガンダ共和国 グル県
主な受益者	元子ども兵128名(内37名は今年度に卒業)／貧困層住民89名

紛争下で食糧の自給に取り組む人々

コンゴ紛争では540万人もの命が奪われ、2002年の和平合意以降も東部地域では武装勢力の戦闘が続き、多くの住民が食糧や医療へのアクセスを制限された生活を余儀なくされてきました。2009年以降、武装勢力の活動も沈静化してきていますが、活動地域の南キブ州は、今も武装勢力（FDLR：ルワンダ解放民主勢力）の影響下にあり村々の襲撃や住民の殺害、食糧の略奪などによって人々は不安定な生活を続けています。

当プロジェクトでは現地事情に精通した現地NGOのGRAMと連携し、地元の伝統リーダーなどの協力の下、紛争下で生きる人々、中でも元子ども兵や性的被害を受けた女性などの社会的弱者が、BHN（人間にとっての基本的ニーズ）を満たし、生活を再建していくことを目的に活動を続けています。その活動の一つが、相互扶助グループを組織して、生存のために必要な食糧を確保する活動です。農業指導や農具、種子の供与、魚の養殖などを通して「食糧の安全保障」を確保することを目指しています。対象地域12ヶ村の各グループが協力して食糧を生産し、収穫が少なかったり、武装勢力による食糧の略奪などの影響を受けた他のグループを補助する仕組みで受益者の相互扶助（助け合い）を促進しながら自給食糧を安定的に確保することを目指しています。

今年度は現金収入のための余剰作物までは生産できなかったものの12ヶ村の全グループが自給に必要な作物を生産することができました。また、魚の養殖用の母体となるため池が完成し、稚魚1280匹を放流し、4カ村（4グループ）がそれぞれの村に母体池で繁殖した稚魚を放流するための池を完成させました。

失われた教育の機会を取り戻し始めた子どもたち

コンゴ紛争下では、多くの子どもが親を亡くし孤児となり、またそのほとんどの子どもたちが教育の機会を奪われました。現在も政府が子どもの教育に使う予算はほとんどゼロに等しい状態です。そこで、紛争後の平和を創っていくべき存在である子どもたち（孤児158名）に対して、基礎教育を1年間（平日半日間の授業）行いました。一定の教育水準に達すると公立小学校の高学年に編入することができるので、紛争後、教育環境が整備される中で将来、孤児たちが学校教育に復帰できることを目指しています。



紛争下で自給用の農作物を収穫する性的被害を受けた女性たち



魚の養殖に取り組む元子ども兵たち



孤児の子どもたちへのインフォーマル教育の様子

●コンゴ東部元子ども兵社会復帰支援プロジェクト概要

プロジェクトの目的	紛争下で生きる元子ども兵及び紛争被害者のBHN(人間としての基本的ニーズ)が満たされる
対象地	コンゴ民主共和国南キブ州カレヘ行政区カロンゲ区域12ヶ村
主な受益者	直接受益者711名(元子ども兵171名、紛争被害女性382名、孤児158名)

元子ども兵と紛争被害者が職業技術を習得

コンゴ東部では少なくとも3万人以上の子どもたちが兵士として戦闘に加担させられてきました。その内の約1万人は南キブ州の子どもたちであったとも言われています。また同州では政府軍や武装勢力による女性に対する性的虐待が多数起っていることから、紛争の被害を受け、村々に帰還しているこれらの元子ども兵や女性たちが社会経済的に統合されていくことが今後の課題とされています。

当会では、2009年に株式会社アイケイ様のご支援を受けて完成した施設（グローブハウスⅢ）を拠点に、こうした紛争被害者に対して職業訓練やカウンセリングなどを行ってきました。今年度は性的虐待などの被害を受けた女性や、そのことが原因で未亡人となった11名の女性が半年間の洋裁の訓練を修了し、元子ども兵15名が木工大工訓練を修了しました。また、当会のウガンダ現地職員が手工芸訓練の指導員（GRAMスタッフ）を養成し、その結果、20名の受益者が現金収入のための手工芸品（写真右）を約500個完成させました。



【左上】性的虐待などの被害を受けた女性が完成させた手工芸品
 【右上】洋裁訓練を終え修了証書を受け取る受益者たち(グローブハウスⅢにて)
 【右下】木工大工の技術習得に励む元少年兵たち

小型武器問題啓発プロジェクト

不法小型武器問題への取り組み

ウガンダ北部、コンゴ東部で起っている紛争の大きな要因の一つに不法な小型武器が外部から流入していることがあります。こうした小型武器問題に関する市民の意識を向上するために、当会では地元NGOらと協力しての啓発活動や政府と市民社会の情報交換の場を提供するなどの活動を行ってきました。2009年度は東アフリカ地域に広がる市民社会組織（EAANSA:東アフリカ小型武器行動ネットワーク）の協力・ネットワークを強化するための共通資料作成を行ってきました。（2010年度に冊子として完成予定）



不法小型武器に関する記者会見とセミナーの様子。当会が資金を提供し、地元のNGOらが主催してメディア関係者や内務大臣(中央)らを招致

● 不法小型武器問題啓発プロジェクト概要

プロジェクトの目的	不法小型武器問題に関する市民の意識を向上するとともに政府と市民社会の協力関係を強化する
対象地	ウガンダ共和国カンバラ市
主な受益者	不法小型武器の被害を受けている地域の住民

平和教育・啓発活動事業

回収事業

● 使用済みインクカートリッジ

2009年度は合計**854,590円**分もの使用済みインクカートリッジを全国各地の支援者様よりご寄付いただきました。



2009年度は、株式会社ウエダ本社様とパートナーシップを組み、ウエダ本社様の取引先様へインクカートリッジの回収を広く呼びかけていただきました。

また、2009年12月から2010年1月末までの回収強化キャンペーンを行い、積極的に回収を呼びかけた結果、キャンペーン期間中に合計**153,235円**分もの使用済みインクカートリッジをご寄付いただきました。



使用済みインクカートリッジ仕分け作業の様子
(当会事務所にて)



● 書き損じハガキ

2009年度は合計**1,880,037円**分もの書き損じハガキを全国各地の支援者様よりご寄付いただきました。

また、2008年度に続き、はがきの使用頻度が高まる年末に回収強化キャンペーンを2009年12月から2010年1月末までを行い、**391,964円**分の書き損じハガキの回収にご協力いただきました。

書き損じハガキの収益は、カンボジアやウガンダの国際協力事業に大切にに使わせていただいています。



書き損じハガキ仕分け作業の様子
(当会事務所にて)

● 募金箱

2009年4月から2010年5月までの募金箱合計金額は**834,984円**でした。昨年度に引き続き、日本全国の企業様、団体様に設置の協力をいただいています。

募金箱設置については、「テラ・ルネッサンス」のウェブサイト→「わたしにできること」→「募金箱設置に協力する」をご覧ください。

また、募金箱設置にご協力いただけるご友人、職場、お店、学校など、ぜひともご紹介ください。

【お問い合わせ】 email: contact@terra-r.jp
TEL: 075-645-1802
担当: 栗田まで



京都、増尾文尚堂(文具店)様

カンボジアのパネルを寄贈いただきました

2009度は教育機関や各種イベントなど、計13ヶ所でパネルを展示していただきました。

また、2009年10月、ノンフィクション作家の柳原和子さんのご遺族より、タイの難民キャンプで撮影した写真や著書『カンボジアの24色のクレヨン(1986年、晶文社)』に登場する少年の絵を寄贈いただきました。現在、いただいた写真や絵に説明文をつけるための調査を行っています。

調査完了後、レンタルを開始予定です。

文化祭や講演会など、人が多く集まるイベントでパネル展示会を開催しませんか。詳しくは当会ウェブサイトをご覧ください。(http://www.terra-r.jp)



柳原和子さんのご遺族より
寄贈いただいた写真パネル

カンボジア・スタディツアー

「感じる」「知る」から「伝える」へ

2009年度はカンボジア・スタディツアーを2回開催しました。1回目は8月17日～8月22日の日程で、シェムリアップ、バットアンバン市の2都市を訪れ、合計11名の方に参加いただきました。2回目のツアーでは、2010年2月28日～3月7日の日程で、プノンペン、シェムリアップ、バットアンバン市の3都市を訪れ、合計10名の方に参加いただきました。

至るところに電光掲示板ができるなど、都市部は日々刻々と変化を続けるカンボジア。しかし、バットアンバン州など、一歩郊外に出ればそこには依然として地雷原があり、内戦の爪痕を実感させられます。そのような貧富が入り混じったカンボジアの生の姿を見て、参加者の方々とともに、それぞれ感じたこと、思ったこと、考えたことを交換し合いました。帰国後も、その時感じた思い、学んだことを「伝えたい」と報告書を作成し、友人や家族に配布していただきました。



【左】地雷撤去作業のデモンストレーションの見学風景
【右】バットアンバン州にある孤児院の子どもたちとの交流

2009年度イベント ～こんなイベントがありました。～

- 5月16-17日 アフリカンフェスタ(横浜)
- 6月5日 ラオス事業報告会(京都)
- 6月8日 ウガンダ事業報告会(東京)
- 6月21日 ウガンダ事業報告会(青森)
- 7月4日 ウガンダ事業報告会(京都)
- 7月11日 「頑張らない」チャリティバドミントン大会(大阪)
- 7月18日 ウガンダ事業報告会(愛知)
- 7月27日 KKLH チャリティチャイルドカット (京都)
- 8月2日 国際協カステーション(京都)
- 9月12-13日 大和山チャリティバザー (青森)
- 10月17日 京都ヒューマンフェスタ (京都)
- 11月30日 KKLHチャリティチャイルドカット (京都)
- 12月20日 市民活動フェスタ(京都)
- 1月11日 子ども@まつり(京都)
- 2月6-7日 ワンワールドフェスティバル (大阪)
- 2月12日 Let's いっちょカマーキャンペーン(大阪)
- 3月8日 KKLHチャリティチャイルドカット (京都)

● チャリティチャイルドカット

(クンクンルーホー様)

クンクンルーホー様では年に3回、カットを通して「チビッコにHAPPYになってもらい、そんなHAPPYを募金という形で世界へ届け、HAPPYの輪を広げる」という思いの下、ちびっこを対象にチャリティカットイベントを企画してくださっています。



今年も集まったお金を、ウガンダ元子ども兵社会復帰支援にご寄付いただきました。

3月に行われたイベントの様子
今年もたくさんのチビッコが来てくれました。

● 「頑張らない」 チャリティバドミントン大会 (頑張らないバドミントン研究会様)

頑張らないバドミントン研究会様主催の頑張らないバドミントン大会。2009年度は3回目の開催となり、すっかり恒例行事となりました。

ご寄付いただいた407,087円はカンボジアの事業に使わせていただきました。(詳細は7ページをご覧ください)



念願の一勝なるか!?!の瞬間
「継続は力なり」2010年度は初の1勝を目指します!!

● 出演メディア一覧

「コンゴに職業訓練施設」毎日新聞(4月6日)、「栗田さん職員に」毎日新聞(4月25日)、「僕たちの同世代戦わせない」中国新聞(4月27日)、「元子ども兵 支援の道を」北海道新聞(5月4日)、「元子ども兵の職業訓練など紹介」北海道新聞(5月10日)、「地雷原の現状を語る」十勝毎日新聞(5月12日)、「子ども兵の現状知って」十勝毎日新聞(5月15日)、「子ども兵 教育が救う」東京新聞(5月31日)、「JICA world」(6月号)「子ども兵 郷里に帰れず」中日新聞(6月25日)、「4日下京で報告会」毎日新聞(7月2日)、「心のケアが重要」京都新聞(7月5日)、「アフリカ子ども兵の悲劇知って」中日新聞(7月10日)、「NBC昼刊」NBC長崎放送(7月11日)、「活動5年目 初の卒業生」京都新聞(7月22日)、「おはよう日本」NHK(8月6日)、「きょうの世界」NHK BS1(8月7日)、「国際支援に協力」京都新聞(9月30日)、「事務機器販売会社と連携」毎日新聞(10月2日)、「ラーニングプラネット」朝日ニュースター(10月24日)、「Donate Now!」エココロ(11月号)、「戦争を伝える大切さを強調 チャリティー講演」北國新聞(11月23日)、「お歳暮で救いの手を」京都新聞(12月8日)、「活動描くマンガ第2弾」京都新聞(12月27日)、「問題解決へ自己変革を」山陰中央新聞(1月17日)、「国際開発ジャーナル」(2月1日)、「書き損じハガキ回収協力を」京都新聞(2月2日)

講演テーマ 2009年度も多くの方々に講演を聞いていただきました。

- 『地雷畑で見た夢～地雷廃絶を目指して～』（地雷・クラスター爆弾、講師：鬼丸昌也）
7,000万個も未だに埋設され、30分に一人の割合で、被害者を生みだしている地雷被害の現状をお話します。
- 『ぼくは13歳 職業、兵士。～ウガンダの子ども兵が教えてくれたこと～』（子ども兵、小型武器、講師：鬼丸昌也）
10代で徴兵される子どもたち。軍隊の中での暴力と恐怖。紛争下に生きる子どもたちが子どもらしく生活できる社会の実現に向けて、私たちに何ができるのかを考えます。
- 『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』（社会起業、講師：鬼丸昌也）
大学4年生でNGOを設立。以来、全国各地で平和、地雷、子ども兵に関する講演活動、カンボジア、ウガンダなどでの支援事業を立ち上げる過程で気づいた「一歩を踏み出すこと」の大切さを、自身の体験を通じてお話します。
- 『世界の子ども～平和への一歩～』（子ども兵、他、講師：栗田佳典）
講師が見た世界で必死に生きる子どもたちの現状を伝え、自分にできることを考えます。

● 主催者様の声



いなべ市教育委員会 教育研究所 小林宏人様

教職員を対象とした講演会へお越しいただきました。鬼丸先生のお話から、平和について考え、平和の大切さを確認しました。未来を担う子どもと過ごす教師。その仕事の役割、責任の大きさを感じました。参加者は、世界を変えようと活動されている姿勢や情熱に感化され、「何かやってみよう」「一歩を踏み出そう」と心を動かされました。主催者として、参加者のこういった心の動きが何よりも嬉しかったです。ありがとうございました。



医療法人社団 恵心会 京都武田病院 総務部 部長 森本茂樹様

当院では鬼丸さんに2009年6月、全職員を対象に「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した」のテーマでご講演いただき、また2010年4月の新入職員オリエンテーションの一環としてもご講演いただきました。鬼丸さんの一言一言が職員の心に響き、中には涙を流す一幕も…。講演後のアンケートではいずれも「自分に気付かされた」、「できることから始めていきたい」、「もっと世界に目を向けたい」といった感想内容で、主催した我々にとっても職員の育成につながったと確信しております。この講演によって目覚めた職員の平和を想う“こころ”を“ちから”に変えていける一歩を踏み出したと感じています。



人権を考えるシンポジウム実行委員会 森田多賀枝様

鳥取県が事業費を補助するミニ人権シンポジウム事業として、「平和な未来を創るために私たちにできることを考えるシンポジウム」を開催し、鬼丸さんに講演していただきました。講演は、世界の各地で続いている戦争の厳しい現実を語る中にも、聞いている人が心を閉ざさないようにと、ユーモアにあふれたものでした。参加した子どもたちからも、様々な感想、真剣な言葉が寄せられ、参加者にとっても世界のことを身近に感じ、考え、自分の生き方についても考える大変よい機会になりました。

● 講演実績（敬省略、順不同）

企業：（株）デミック、（宗）松緑神道大和山、（宗）立正佼成会、（株）ありがトシ、（医）京都武田病院、ネットヨタ南国（株）、さかい税理士事務所、（株）クリエイト、（株）アルファプライト、（有）シンプルタスク、東京海上日動火災保険（株）、（株）西井製作所、（株）インフィニティ、（株）黒川クリーニング社、（宗）参学寺、（株）美earth、セイワ輸送（株）、（株）上筑波自動車学校、（有）ルーツ、（株）アントレプレナーセンター

行政：和歌山県用地対策連絡協議会、京都府府民力推進課、大阪府阪南市、三重県いなべ市、京都府議会事務局、横浜市

教育機関：桃山学院大学、甲南女子大学、本別町立本別中央小学校、立命館大学、門真市立第六中学校、枚方市立東香里中学校、京都市立朱雀中学校、松風塾高等学校、茨木市立茨木東中学校、枚方市立招堤中学校、橿原市立光陽中学校、神戸市外国語大学、橿原市立畝傍中学校、大阪市立真住中学校、和歌山県立田辺高等学校、立命館宇治高等学校、京都光華女子大学、竹田南高等学校、和歌山県立桐蔭中学校、いなべ市立員弁中学校、関西学院大学、龍谷大学、稲美町立稲美北中学校、和歌山県立笠田高等学校、京都市立北野中学校、練馬区立大泉第二中学校、枚方市立第二中学校、門真市立第七中学校、大阪府立佐野高等学校、京都市立日吉が丘中学校、早稲田大学、安来市立宇賀荘小学校、大阪府立泉北高等学校、金沢高等学校、京都府立南丹高等学校、吹田市立佐井寺中学校

団体：希望の光実行委員会、伊賀市準倫理法人会、（社）葛城青年会議所、田辺国際交流協会、（社）亀岡青年会議所、えことびい長崎、TEAMしろくま、地雷ゼロ鹿児島、アースネット・なごや、大阪高野塾、新潟県生活協同組合連合会、APP、採用と教育、志立生きるちからスクール、群馬県宗教団体連合会、（社）草津青年会議所、（社）岩国青年会議所、難民映画祭なごや、高知県経営品質協議会、ガイアネットワーク、人権を考えるシンポジウム実行委員会、滋賀県中小企業家同友会、京都府私立幼稚園東山・山科地区PTA連合会、（社）小牧法人会、北下支部小学校PTA連絡協議会、北上支部小学校PTA連絡協議会、国際ロータリー、（財）淡海文化振興財団、新日本宗教青年会連盟新潟県委員会、四国青年NGO会館、YASUTA CAFE、整骨院経営研究会

支援者様のご支援紹介

株式会社 みしまや様は、島根県松江市を中心にスーパーマーケットを展開されています。「お客様の善意を世界の恵まれない方々に役立てる」という思いの下、テラ・ルネッサンスの活動を支援してくださっています。

店頭募金、「あなたの思いやり ふれ愛ショップ」を通じて、お客様の想いを届ける…

ご支援内容

みしまや様では、店頭での募金活動や「あなたの思いやり ふれ愛ショップ」を通して、集められた募金や収益をテラ・ルネッサンスにご寄付くださっています。

「あなたの思いやり ふれ愛ショップ」では、家庭で眠っている不用品を無料で、お客様よりご提供いただき、それを販売し、その売上金を恵まれない方々に寄贈するという活動を続けておられます。

また、団体会員としての支援だけではなく、「スーパーマーケット」だからこそのことを考え、寄付の他、定期的に新聞の折り込みチラシにテラ・ルネッサンスの活動を掲載してくださるなど、ユニークなご支援をしてくださっています。

きっかけは鬼丸との出会い

ご支援のきっかけは、代表の鬼丸とみしまや様との出会いでした。みしまや様はかねてから、社会貢献活動に熱心に取り組まれています。2006年、鬼丸と出会い、地雷や子ども兵といった、今起きている問題が多くあること知り、できることから始めたい、との思いで、テラ・ルネッサンスへの支援を始めてくださいました。

地域や世界の問題に関わりを持とうとする人を増やしたい…

みしまや様は、世界中で起きている問題に何かのカタチに関わりたいが、何から始めてよいのかわからず、動き出せていない方へテラ・ルネッサンスを紹介してくださっています。そして、みしまや様の取り組みやテラ・ルネッサンスとのつながりに参加する方や、地域から世界まで多くの問題に関心を持ち、関わりを持とうとする人が増えてくれたら…。そんな思いでご支援を続けてくださっています。



島根県松江市 田和山店全景



大勢の人で賑わうふれ愛ショップの様子

●ご担当者様の声 株式会社みしまや 専務取締役 三島隆史様



テラ・ルネッサンス様ホームページ、会報誌『結晶母』等からテラ・ルネッサンス様の活動の広がり、支援される方々の関わり方の多様化を見させていただき、我々の取り組みも変わっていかねばと感じています。テラ・ルネッサンス様のご活動について直接うかがう機会を定期的につくり、意識を高める取り組みもしていけたらと思っています。

株式会社黒川クリーニング様は、石川県、福井県を中心にクリーニング店を展開されています。全社一丸となつての店頭募金や講演会の開催を通じて、テラ・ルネッサンスの活動を支援してくださっています。

できることの積み重ねを 世界の子どもたちの笑顔につなげる

ご支援内容

黒川クリーニング石川支社様では、募金箱の設置、レジ袋の有料化、「ECO&PEACEキャンペーン」として、クリーニングの簡易包装による包装費の還元分をお客様から募金としていただき、テラ・ルネッサンスに寄付するなど、クリーニング店ならではの支援を行ってくださっています。

また、書き損じハガキ、使用済みインクジェットカートリッジの回収に加え、チャリティ講演会の開催など幅広いご支援をいただいています。

『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』を読んで、 踏み出した一歩

鬼丸の著書『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』を読み、社員研修会の講師として、鬼丸を招致いただいたのが、黒川クリーニング様との出会いです。その講演で衝撃を受けたスタッフの方々から「何か自分たちにもできることはないか」という声が集まり、支援に結びつけてくださったのです。

テラ・ルネッサンスに思いを託して…

「今、地球上に何が起きているのか？どこで、誰が、どのような支援を必要としているのか？正直に言って私たちにはよくわからない」。黒川クリーニング社の皆さんは、最初戸惑われたそうです。

「しかし、テラ・ルネッサンスのお手伝いをするのならできる。」との思いで、日々の仕事の中で、自分たちができる小さなことをコツコツと続けて支援をしてくださっています。そして、その思いをテラ・ルネッサンスに託し、それが地球上のどこかで子どもたちの笑顔につながっていることを想像し、テラ・ルネッサンスとともに、大きな夢を描いてくださっています。



「ECO&PEACEキャンペーン」の収益をテラ・ルネッサンスにご寄付いただいています。



集まった書き損じハガキ、使用済みインクジェットカートリッジ、募金箱とともに。

●ご担当者様の声 株式会社黒川クリーニング社石川支社の皆様



これまで社会貢献というと正直、他人事と思っていましたが、とても身近に感じる事ができました。私たちの小さな取り組みが、誰かの役に立つと思うとやりがいがあります。仕事に対しても前向きになり、感謝するようになりました。鬼丸さんの話を聞き、生きることの大切さを改めて感じる事ができました。これを読んで、企業の大小や業種にかかわらず誰にでも小さな貢献ができるということ、一人でも多くの方が考えるようになってくれれば、うれしく思います。

いつも温かいご支援ありがとうございます。
テラ・ルネッサンスは、ともに世界を変える企業パートナーを募集しています。

会計報告

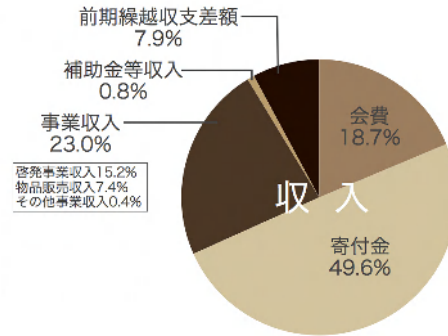
収支計算書

(2009年4月1日～2010年3月31日)

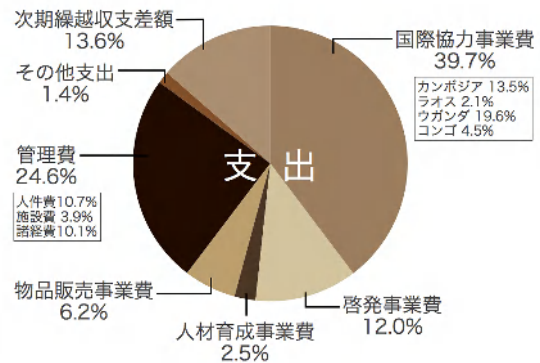
科目	(単位:円)	
	予算	決算
経常収支の部		
I 経常収入の部		
1. 会費収入	13,000,000	12,655,000
2. 寄付金収入	28,000,000	33,585,528
一般寄付	10,000,000	10,080,999
カンボジア事業指定寄付	7,500,000	3,886,478
ラオス事業指定寄付	500,000	1,440,000
ウガンダ事業指定寄付	9,000,000	14,643,881
コンゴ事業指定寄付	1,000,000	3,534,170
3. 事業収入	20,200,000	15,590,511
啓発事業収入	14,000,000	10,284,877
物品販売収入	6,000,000	5,027,758
その他事業収入	200,000	277,876
4. 補助金等収入	260,000	560,000
(財)京都府国際センター「国際虹の輪募金」	260,000	260,000
連合「愛のカンパ」	0	300,000
5. その他収入	160,000	151,815
経常収入合計	61,620,000	62,542,854
II 経常支出の部		
1. 事業費	45,820,000	40,973,982
国際協力事業費	28,550,000	26,932,249
(カンボジア)	7,800,000	9,163,567
(ラオス)	500,000	1,454,493
(ウガンダ)	18,250,000	13,285,069
(コンゴ)	2,000,000	3,029,120
啓発事業費	9,920,000	8,167,094
人材育成事業費	5,500,000	1,689,538
物品販売事業費	1,850,000	4,185,101
2. 管理費	15,744,440	16,728,890
人件費	6,821,440	7,244,439
施設費	2,781,000	2,614,592
諸経費	6,142,000	6,869,859
経常支出合計	61,564,440	57,702,872
経常収支差額	55,560	4,839,982
III その他資金支出の部		
1. 固定資産購入支出	0	962,166
カンボジア現地車両購入支出	0	594,776
事務局工具器具備品購入支出	0	364,600
その他流動資産支出	0	2,790
その他資金支出合計	0	962,166
当期収支差額	55,560	3,877,816
前期繰越収支差額	5,325,854	5,325,854
次期繰越収支差額	5,381,414	9,203,670

正味財産増減の部

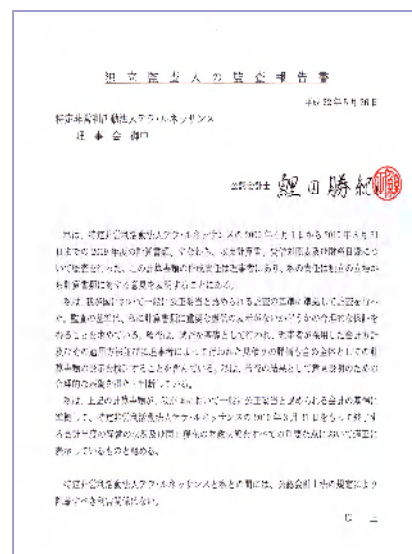
IV 正味財産増加の部		
1. 資産増加額		
当期収支差額	3,877,816	
期末商品棚卸高増加	69,868	
貸付金残高増加	176,347	
その他流動資産増加	2,790	
車両運搬具取得当期支出額	594,776	
工具器具備品取得当期支出額	364,600	
増加額合計	5,086,197	
正味財産増加合計	5,086,197	
V 正味財産減少の部		
1. 資産減少額		
建物減価償却	185,315	
車両運搬具減価償却	1,707,334	
工具器具備品減価償却	121,533	
減少額合計	2,014,182	
正味財産減少合計	2,014,182	
当期正味財産増減額	3,072,015	
前期繰越正味財産額	13,914,749	
当期正味財産合計	16,986,764	



収入内訳



支出内訳



監査報告書

2009年度 国際協力事業費明細

	(単位：円)		(単位：円)
カンボジア事業費	9,163,567	ウガンダ事業費	13,285,069
一般管理費	3,197,410	一般管理費	4,824,589
地雷埋設地域村落開発プロジェクト	4,161,798	ウガンダ北部における元子ども兵社会復帰支援プロジェクト	7,290,174
地雷回避教育プロジェクト	115,146	BNH支援活動費	2,691,744
地雷撤去支援プロジェクト	551,400	能力向上支援活動費	2,454,035
女性技師装具土壌成支援プロジェクト	753,065	心理社会支援活動費	901,086
日本国内業務費	384,748	所得向上支援活動費	919,819
		マイクロクレジット原資費	323,490
		不法小型武器問題啓発プロジェクト	400,810
		日本国内業務費	769,496
ラオス事業費	(単位：円)		(単位：円)
不発弾埋設地域中学校建設プロジェクト	1,454,493		3,029,120
不発弾撤去支援プロジェクト	209,933		
	1,244,560		
		コンゴ事業費	(単位：円)
		コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト	3,029,120

貸借対照表

(2010年3月31日現在)

	(単位：円)		(単位：円)
資産の部		負債の部	
1. 流動資産		1. 流動負債	
現金預金	10,121,842	未払金	719,102
商品	304,806	預り金	167,339
前払費用	2,790	未払法人税等	70000
仮払金	38,269	流動負債合計	956,441
貸付金	1,001,656	負債合計	956,441
流動資産合計	11,469,363		
2. 固定資産			(単位：円)
有形固定資産		正味財産の部	
建物	5,559,471	前期繰越正味財産	13,914,749
車両運搬具	3,946,378	当期正味財産増減額	3,072,015
工具器具備品	364,600	正味財産合計	16,986,764
土地	444,234	負債及び正味財産合計	17,943,205
減価償却累計額	-3,840,841		
固定資産合計	6,473,842		
資産合計	17,943,205		

2010年度予算

(2010年4月1日 - 2011年3月31日)

	(単位：円)		(単位：円)
収入の部		支出の部	
会費収入	15,000,000	事業費	45,604,000
寄付金収入	33,500,000	国際協力事業費	31,400,000
一般寄付	12,000,000	(カンボジア)	8,400,000
カンボジア事業指定寄付	4,000,000	(ラオス)	1,000,000
ラオス事業指定寄付	500,000	(ウガンダ)	18,000,000
ウガンダ事業指定寄付	15,000,000	(コンゴ)	4,000,000
コンゴ事業指定寄付	2,000,000	啓発事業費	7,500,000
事業収入	15,530,000	人材育成事業費	1,364,000
啓発事業収入	9,530,000	物品販売事業費	5,340,000
物品販売収入	6,000,000	管理費	17,762,000
その他事業収入	0	人件費	6,884,000
補助金等収入	270,000	施設費	2,580,000
その他収入	155,000	諸経費	8,298,000
当期収入合計	64,455,000	その他資金支出	0
前期繰越収支差額	9,203,670	当期支出合計	63,366,000
収入合計	73,658,670	当期収支差額	1,089,000
		次期繰越収支差額	10,292,670
		支出合計	73,658,670

物販

テラ・ルネッサンスでは、身近にできる国際協力として、テラ・ルネッサンス関連商品の販売をしています。物品の収益はテラ・ルネッサンスの活動費に充てられます。

ウガンダコーヒーに夢中

●ウガンダ産オーガニックコーヒー

ウガンダ産オーガニックコーヒーは、「フェア・トレード」、「無農薬・無肥料」、生産者にも消費者にもやさしいコーヒーです。味もマイルドでどなたでも好き嫌いなく飲んでいただいているようです。FAXでのご注文の他、わざわざ事務局まで来てお買い求め下さるお客様も増えています。ぜひ一度ご賞味下さい。

リピーター急増中!!



●ウガンダハンディクラフト

テラ・ルネッサンスでは、ウガンダやコンゴの子ども兵や紛争被害者が作ったペーパービーズネックレスや携帯ストラップを販売しています。これらのハンディクラフトはテラ・ルネッサンスのイベントや、ご協力いただいている美容室クンクンルーホー様(京都市)の店頭、プレマ株式会社様のネットショッピングサイト「びんちょうたんコム」でお買い求めいただけます。(URL: <http://www.binchoutan.com/>)



携帯ストラップ



ペーパービーズネックレス

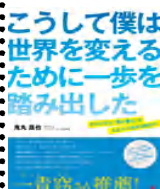
●書籍 好評発売中!!



『ぼくは13歳 職業、兵士。-あなたが戦争のある村で生まれるら-』

価格1,365円(税込) 合同出版

毎年50万人、毎分1人の命が小型武器により奪われる。なかでも小型武器を持たされ、兵士として戦わされる子ども兵の問題は深刻だ。そんな絶望的な問題の現状と私たちにできることを提示する子ども兵問題の手引き書。



『こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した』

価格1,470円(税込) こう書房

学生時代、たった一人からNGOを作った青年。地雷・小型武器・子ども兵・平和教育…そのメッセージは確実に日本中に広がっている。情熱の社会起業家ストーリー。



『マンガ テラ・ルネッサンスI』『マンガ テラ・ルネッサンスII』

価格各1,260円(税込) インフィニティ

経営品質を追求する経営者の間で話題沸騰!!テラ・ルネッサンスが出会った紛争に苦しむ人々、そして、そうした問題に立ち向かう鬼丸昌也の挑戦。『生きる力』が湧いてくる渾身の2冊。

物販に関する問い合わせ:テラ・ルネッサンス事務局 担当:吉田

TEL:075-645-1802

組織の概要

●役員のご紹介

理事

岡田多母(有限会社アースエネルギー研究所取締役)
小川真吾(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス ウガンダ駐在代表)
鬼丸昌也(特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事長)
中井隆栄(株式会社サピエンスマネジメント代表取締役)

監事

本田俊雄(弁護士/法律事務所あすか所長)

●職員のご紹介

日本事務局

事務局職員：鬼丸昌也、牧野由起子、栗田佳典、吉田真衣

カンボジア事務所：駐在代表 江角泰

ウガンダ事務所：駐在代表 小川真吾



カンボジア駐在代表
江角 泰



カンボジア事務所スタッフ



ウガンダ駐在代表
小川 真吾



ウガンダ事務所スタッフ

●第三者意見 特定非営利活動法人関西NGO協議会 事務局長・理事 榛木恵子さん



2009年度年次報告書が届き、巻頭の「2009年度の振り返り」を読み、ページをめくっていくと、2009年度の指標である「問題は、認知度を高めない限り、問題にならない」の言葉を、事業において「具現化する」ことに事務局が取り組んだ軌跡が紙面に現れていた。海外、国内の各事業報告を通して、テラ・ルネッサンスのメッセージが鮮明に浮んでくる。3Dのような立体感のある報告書ができあがっている。単にレイアウトなどの広報ツールが強化されただけでは、このような効果は表われない。組織内で支援者との関わり、出会いの経験値が共有されることから、互いの業務への理解を深め、信頼に基づいて事業に取り組んだ成果である。

そして、会計報告では収支項目が詳細な決算表、貸借対照表が掲載され、NPO法人の財務としての説明責任が確保されたことは、前進である。持続可能な組織改革への初年度として、2009年度の目的は達成されていると思う。

また、国内の参加メニューは、支援者とのコラボレーションにより増加している。さらに支援者の視線で作られたオリジナルな参加メニューの開拓を期待している。

しかし、海外プロジェクトにおいては、過渡期なので客観的な評価を、開発プロジェクトの専門家に託す方法を視野に入れて、「活動の選択」に取り組まれることが望ましいと思う。

最後に、「マニフェスト ～世界を変える3つの提言 30の行動目標～」の実現への出発に大きな拍手を送るとともに、NGOという人の群れが起こす未来への可能性について、再考させられた次第である。

あなたの「一歩」が世界を変える

たとえば、あなたの一歩(1000円)でできること

カンボジア



1986年代後半から、戦争やクーデターが続いたカンボジア。戦時中400万～600万個もの地雷が埋設されたといわれており、内戦中には子ども兵が存在した事実も確認されています。現在は治安回復したものの、農村部にはまだまだ大量の地雷が残されており、都市と農村の格差が拡大するという、新しい問題も生まれています。

1000円

10平方メートルの地雷・不発弾の除去作業を行うことができます。

ラオス



ベトナム戦争に巻き込まれたラオスには、200万トンを超える爆弾が落とされました。これらの爆弾のうち多くは、不発率が30%といわれるクラスター爆弾。撤去が難しいために、今でもその多くが地中に残り、不発弾で汚染された田畑や野山で生活を営む、ラオスの人々の生活の発展を妨げ、被害を出し続けています。

1000円

クラスター爆弾被害者の子ども10名へ、文房具を提供できます。

ウガンダ



1980年代後半から反政府組織「神の抵抗軍(LRA)」と政府軍の内戦が、本格的に始まったウガンダ。LRAは平均年齢12.9歳と、ほぼ子どものみで構成された特殊な軍隊であり、少なくとも6万6000人の子どもたちが誘拐され、兵士に仕立て上げられてきました。LRAは今も、一部地域で活動を続けています。

1000円

社会復帰センターで、20食分の給食を元子ども兵に届けることができます。

コンゴ民主共和国



1998年、東部地域で反政府勢力が武装蜂起し、国際紛争へ発展したコンゴ民主共和国。1999年に停戦合意が成立したものの、現在も国内の至る所で、戦闘が続き、第2次世界大戦後に起きた紛争としては世界最大の、540万人もの死者を出しています。不安定な情勢は今も世界に認知されないまま、無視され続けてい

1000円

元子ども兵が職業訓練に参加する学費3日分を補うことができます。



特定非営利活動法人 テラ・ルネッサンス
〒612-0031
京都市伏見区深草池ノ内町5-23
内藤マンション105

TEL/FAX:075-645-1802
E-mail: contact@terra-r.jp
<http://www.terra-r.jp>

定価:500円

HOW TO DONATE

寄付は身近にできる国際協力の第一歩です。あなたの想いをテラ・ルネッサンスに託して下さい。

郵便振替

加入者名:テラ・ルネッサンス国際協力基金
口座番号:00970-4-259873

皆さまからいただいたご寄付は、テラ・ルネッサンスの活動に幅広く使用させていただきます。

